

【大学・地域共創プラットフォーム香川】
令和5年度第3回就職・産業振興部会 議事要旨

開催日時：令和5年12月22日（金）10：30～12：00

開催方法：香川大学幸町北キャンパス

法人本部3階第1会議室（高松市幸町1番1号）

出席機関：香川大学 山神 眞一、香川県 佐々木 宏樹、香川県 芳重 博光、
香川県 岡村 武典、徳島文理大学 横山 賢治、高松大学 澤田 文男、
香川短期大学 齊藤 栄嗣、高松短期大学 蓮井 明博、香川県商工会
議所連合会 片桐 操（代理）、香川県中小企業団体中央会 朝國 和樹、
香川経済同友会 國村 一郎、香川県中小企業家同友会 有吉 徳洋、
香川県農業協同組合中央会 大村 康夫、香川県銀行協会 久保 正則
（代理）、小豆島町 相原 隆幸

議題事項

1. 就職・産業振興部会令和6年度事業について

就職・産業振興部会令和6年度事業について、各担当から説明を行った。

【委員による補足、意見等】

○学生の就職選定の実態把握（継続）

- ・令和4年度に学生向け就職活動に関するアンケートを実施したが、令和5年度は、企業向け採用活動に関するアンケートを実施予定。就職活動のニーズが多様化する中で、企業側がどのような採用活動を行っているのかを把握し、学生の就職活動とのギャップを明らかにすることを目的とする。令和6年度については、学生側と企業側の双方のアンケート結果を分析し、部会において議論して、具体的な事業提案に繋げていきたいと考えている。アンケートは令和6年1月15日に実施予定であり、意見等あれば、12月25日までに事務局まで連絡をお願いしたい。（香川県労働政策課 岡村委員）

○かがわーくフェア（継続）

- ・大学卒業予定者と企業のマッチングを図り、県内の就職定着を目指す取り組みであり、令和6年度については、4月中旬に開催予定。これまでかがわーくフェアは3回実施してきたが、学生の人数が集まりづらいのが課題である。学生集客において爆発的に効果を発揮する方法もないため、今後も草の根活動で広報を実施していきたい。（香川県商工会議所連合会 片桐主査）

○業種別オンライン県内企業見学ツアー（継続）

- ・令和6年度業種別オンライン県内企業見学ツアーの改善案として、オンラインのメリットを活かし県外学生へも対象を広げることを検討中である。県とも協力し県内出身学生への SNS での発信で県外学生の参加を促したいと考えている。（香川大学キャリア支援課 圖子課長）

○うどん県の自治体で働こう大懇談会（継続）

- ・うどん県の自治体で働こう大懇談会は、県内自治体の若手職員や人事担当者が直接学生と交流できるイベントである。参加学生からは、自治体職員と落ち着いて交流することができると好評であった。今年度は昨年度に比べ参加人数が減ったため、令和6年度においては、実施時期の検討や学生への周知期間・方法の工夫をして参加学生の増加を目指したいと考えている。（香川大学キャリア支援課 圖子課長）

○キャリア支援研修会（継続）

- ・過去3回実施してきたが、参加学生が少ないことが課題である。令和6年度においては、学生からみて分かりやすい名称への変更を検討している。また、各大学のSNSチャンネルを活用して学生への周知を強化していく。会場への交通手段としてバスの手配や、参加学生への参加特典、チラシなど刷新も検討中である。一番の課題である就職ガイダンスとの差別化については、過去5年間に卒業し県内の企業に就職しているOB・OGの参加を検討中である。（香川短期大学 齊藤委員）
- ・企画の改善の方向性については良いと考えるが、各大学等の卒業生の有名人などを招聘するなど学生を集める工夫も検討してもらえればと思う。（山神部会長）

○外国人材活用セミナー&交流会（新規）

- ・外国人材の採用経験がない企業に対して雇用に関するセミナーや、外国人留学生と企業が接する機会をつくることを事業内容としている。高松商工会議所では3年前から独自事業として実施しており、近年外国人材の活用に関する企業の感度は高まってきているが、就職先として日本が選ばれづらくなってきている。県内企業の人材不足の一助となるために、人材確保に尽力していく。なお、今年度の参加については、企業20社程度、外国人留学生は30人程である。（香川県商工会議所連合会 片桐主査）
- ・外国人留学生の在籍数は非常に少人数（薬学部数名、理工学部1～2名）のため個別で対応している。今後参加を促していきたい。（徳島文理大学 横山委員）
- ・コロナの関係でここ数年留学生が少なかったが、今年度は7～8名中国人留学生が在籍している。県内に定着する学生も多いので、周知などに協力していきたい。（高松大学 澤田委員）

○メタバースを利用したオンライン県内企業見学ツアー（廃止）

- ・今年度限定的に実施を試みたが、香川県にて参加企業や参加対象者の規模が大きい「かがわJOBフェスタOnline」を実施しており、同じようなことを別で実施するよりも一つに集約した方がより地域への就職が期待できるのではないかと考えるため、事業を廃止する。今後は香川県主催のイベントを支援していきたい。（香川大学キャリア支援課 圖子課長）

○インタビューシップ（継続）

- ・高校生については、現在県下の高校5校で取り組みを実施しており、令和6年度からは6校で実施する予定である。平均1校あたり50名くらいの参加がある。学生が企業に出向いてインタビューを行い、企業側の回答をもとに発表を行う形式をとっている。企業側が学生をしっかり受け入れる体制を整えていくことが今後の課題である。（香川県中小企業家同友会 有吉委員）
- ・大学生については、地元企業をあまり知らないという課題があるため地元の企業を知る・考える機会を作るためスタートした。高校生は、4月から準備を開始し、夏季休業期間中に2日間インタビューシップを実施するなど、内容が濃いものになっているが、大学生については、夏季休業期間中はインターンシップと被ってしまうため、同様の対応は難しい。インターンシップに参加する前の準備として、働く意味を考えてもらうことを目的として、後期授業を利用しインタビューシップを実施。参加人数は9名で、12月20日にインタビューシップを実施したところである。令和6年度も引き続き実施予定だが、前期と後期で受講学生の人数に差があり、前期の方が多い傾向にある。受入れ側の企業との協力・連携がより一層大事になってくる。（高松短期大学 蓮井委員）

- ・高校生については5年ほど実施しているが、インターンシップに参加した卒業生の後追い、効果の実態は把握できているのか（山神部会長）
→参加学生がその後どうなったか知ることは、1つの大きな課題。三木高校でのインタビューシップに参加経験がある学生が、高松大学のインタビューシップの授業に参加するなど、活動が繋がっているということを証明する事例となった。来年春には、三木高校の在校生と卒業生、企業が集まる座談会を開催予定である。参加経験がどのように活用されているかといったことを検証できる場を作ること、効果の実態把握という課題の解消に繋がればと考えている。（香川県中小企業家同友会 有吉委員）
- ・大学生の参加が増えることで、企業側の受入れにかなり負担がかかるのではないかという懸念があるが、それについてはどう考えているか。（山神部会長）
→従来の職場体験ではない形を学生側に伝えられないと、県内にとどまりたい、こんな企業で働きたいという魅力は伝わらないと考えているため、受入れ企業側のハードルも設けている。参加人数が増えたとしてもハードルは落とさずに取り組んでいきたい。会社理念を理解し学生に魅力を伝えられるよう、社員教育が重要となってくるため、企業側にもメリットがあることである。（香川県中小企業家同友会 有吉委員）

○高校、大学等のイベントへのブース設置（継続、一部新規）

- ・令和5年度は香川大学祭からブース設置をスタート。令和6年度においては、出展する大学の拡充を目指したい。（香川県農業協同組合中央会 大村委員）
- ・令和5年度、高松東高校の文化祭に地元中小企業のブースを設置し、学生に体験型で企業理解ができる「アオ活」を実施。約158名がブースに来場し、地元企業5社が参加。参加学生にアンケートを実施したところ、大半の学生が参加した地元企業のことを知らなかったと回答したが、こんな仕事があるとは知らなかった、面白かったという回答があった。大半が県内就職を考えているという結果も出たため、今後の地元就職への認知の一助となれたのではないと考える。（香川県中小企業家同友会 有吉委員）

○地元中小企業魅力発見バスツアー（新規）

- ・令和5年度に、大学・地域共創プラットフォーム香川産学官共創チャレンジ支援補助金を活用して高校生を対象とするバスツアーを開催した。令和6年度においては、更に発展的な内容で取り組めたらと考えている。大手企業へ目を向けがちな学生が多いと思うが、地元の中小企業の魅力を知ってもらい、地元中小企業に目をむけてもらいたいと考えている。令和5年度に関しては高校生を対象に実施していたが、今後は香川大学とも連携して大学生の参加のバスツアーも実施していく。参加学生の集客に課題があるため、開催時期の調整、学生への周知方法など今後検討していく。これまで独自に実施し、前回実施時は、夏休み期間中に3社を巡り20名ほど参加となった。バス内でも企業との交流を図り企業に関連するクイズなどを実施して、少しでも中小企業の魅力が伝わるような工夫をしてきた。（香川県中小企業団体中央会 朝國委員）
- ・参加人数の確保でアドバイスや、支援・連携できるところはないか。（香川県中小企業団体中央会 朝國委員）
→インタビューシップについては、学校側と連携して半強制的に参加として

いるため、同友会から学生の集客はしていない。広報で広く集めるという方法ではなく、学校側とダイレクトに繋がり連携・協力していくやり方が良いのではないか。宮城県で実施されている活動をモデルとしており、企業と学生が交流するイベントは1つの大きな行事として学校側・企業側と一体となって定着している様子であった。今後目標とするモデルケースである。(香川県中小企業家同友会 有吉委員)

○その他意見

- ・どの構成機関においても、参加学生の集客に課題があると受け止めている。県としても、学生への情報発信を強化するため、県内外の学生への情報発信ツールを確保したいと考えている。現在、保護者・県出身学生双方へのメール配信が可能になっているが、今後はLINEを活用した情報発信も構築予定である。各イベントの告知や集客にも利用できる場合があるので、必要な際にはお声がけいただきたい。(香川県地域活力推進課 佐々木委員)

報告事項

1. 企業向け採用活動に関するアンケート調査について

- ・設問内容について気になる点があれば、部会案内のメールアドレスまたは事務局までご連絡いただきたい。(期限：12月25日)
- ・アンケートの規模を教示してほしい。また、宛先は代表者宛としなくて良いのか。(香川県商工会議所連合会 片桐氏)
→従業員数30人以上の企業1000社を対象として調査を行うこととしている。採用活動を定期的に行っている企業に絞った形である。また、実際に回答するのは、各企業の人事担当者だと考えるので、代表者宛にする必要はないと考えている。(香川県労働政策課 岡村委員)

2. 今後の予定

令和6年度予算案を個別に調整し、固まればメール審議の形式で決議を行いたい。また、2月中に年度のまとめと次年度に向けた事業や予算の確認等を議題とする部会を開催予定。なお、総会は3月27日に開催予定。